

2020年9月期 第1四半期決算説明



【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

株式会社ユーグレナ

2020年2月

2020年1月、当社バイオ燃料製造実証プラントで導入しているBICプロセス技術^{※1}が国際規格

ASTMの新規格を取得^{※2}いたしました。

株主・投資家の皆様におかれましては長らくご期待をいただき誠にありがとうございます。

2020年9月期中の **バイオジェット燃料**
国内初の有償フライト実現を目指して
引き続き尽力してまいります。

※1 米国のChevron Lummus GlobalとApplied Research Associatesが共同開発した独自のバイオ燃料製造技術

※2 バイオジェット燃料が商用航空機に導入されるには、石油系ジェット燃料と同等と認証するASTM D7566規格認証が必要

2020年9月期第1四半期決算情報	P 4
エネルギー・環境事業の進捗	P14
補足資料	P20

2020年9月期 第1四半期決算情報

2020年9月期第1四半期決算

- 当初業績予想のとおり、中長期的な再成長に向けたマーケティング施策の準備と事業基盤整備に注力し、新規顧客獲得のための広告宣伝投資を縮小した結果、前年同期比で減収となるも、概ね計画通りの進捗
- ヘルスケア事業のセグメント損益は四半期ベースで黒字を堅持

エネルギー・環境事業の進捗

- 当社使用のBICプロセス技術により製造されるバイオジェット燃料が、石油系ジェット燃料と同等と認証する**ASTM D7566の新規格を取得**。
当社製造のバイオジェット燃料は国際的に商用航空機への導入が可能に
- 国土交通省の通達改正により**日本国内でも当社バイオジェット燃料が使用可能に**。
有償フライト実現に向けバイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラント（以下、実証プラント）の本格稼働と関係各社との調整を残すのみ
- 実証プラントにおける次世代バイオディーゼル燃料の供給開始は2020年9月期第2四半期中を予定
- **2020年9月期中のバイオジェット燃料による有償フライト実現の目標は堅持**

2020年9月期第1四半期決算および通期業績予想

ヘルスケア事業の再成長に向けたマーケティング施策の準備と事業基盤整備に注力

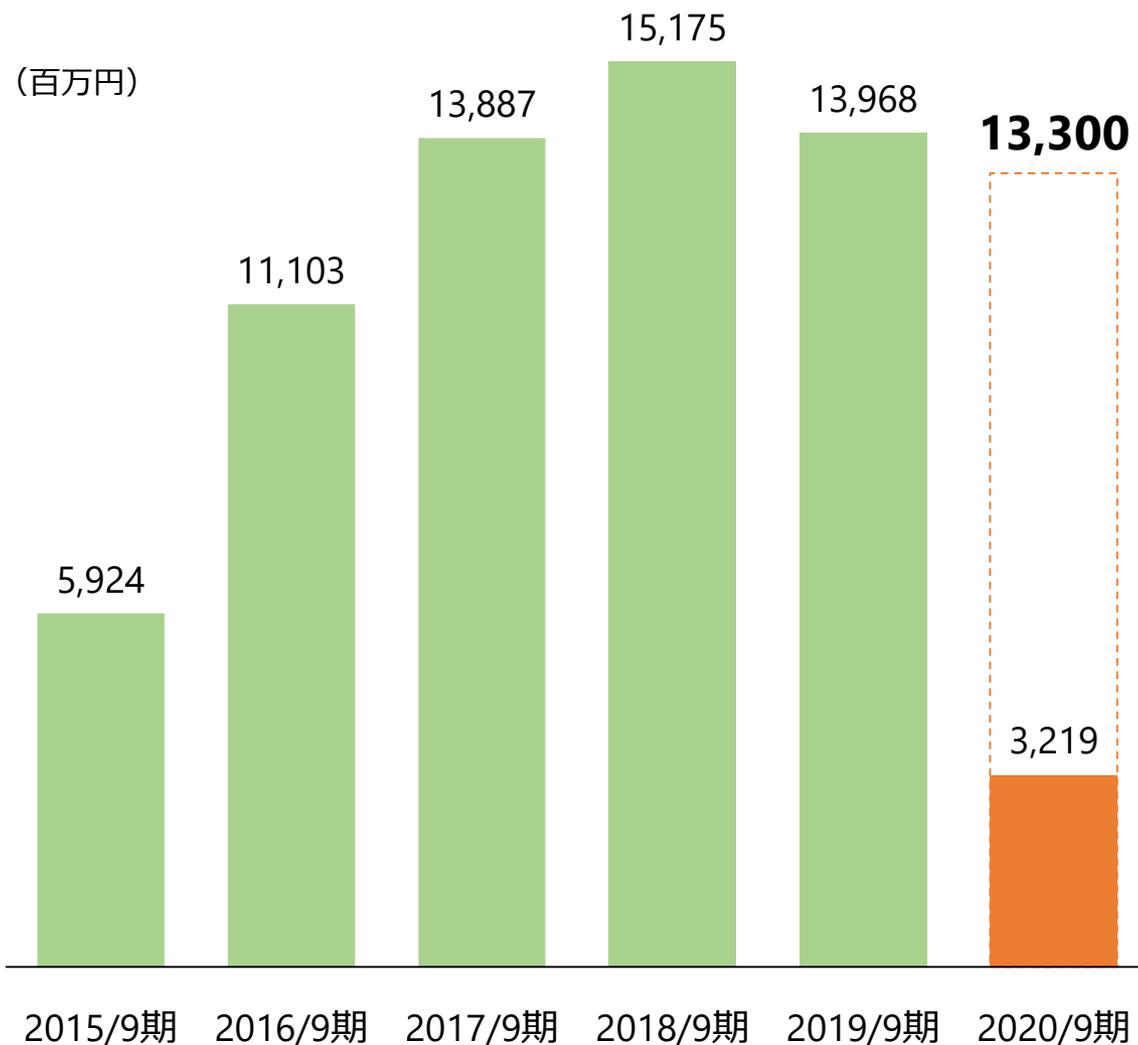
(百万円)	2019/9期1Q実績		2020/9期 1Q実績	2020/9期 業績予想
	一括費用計上※ 含む	一括費用計上 除く		
売上高	3,431	3,431	3,219	13,300
営業利益	△6,457	△87	△ 244	△ 1,200
経常利益	△6,421	△50	△ 216	△ 850
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△6,494	△124	△ 252	△ 900

※バイオ燃料製造実証プラントの建設関連費用: 6,370百万円

注: 上記は決算短信に合わせ百万円未満を切捨てて記載しております。以降のページのチャート、テーブルの記載値は百万円未満を四捨五入しているため、一部数値が一致しない場合があります。

売上高推移

通年業績は前期比減収予想、当四半期は概ね計画通りの進捗

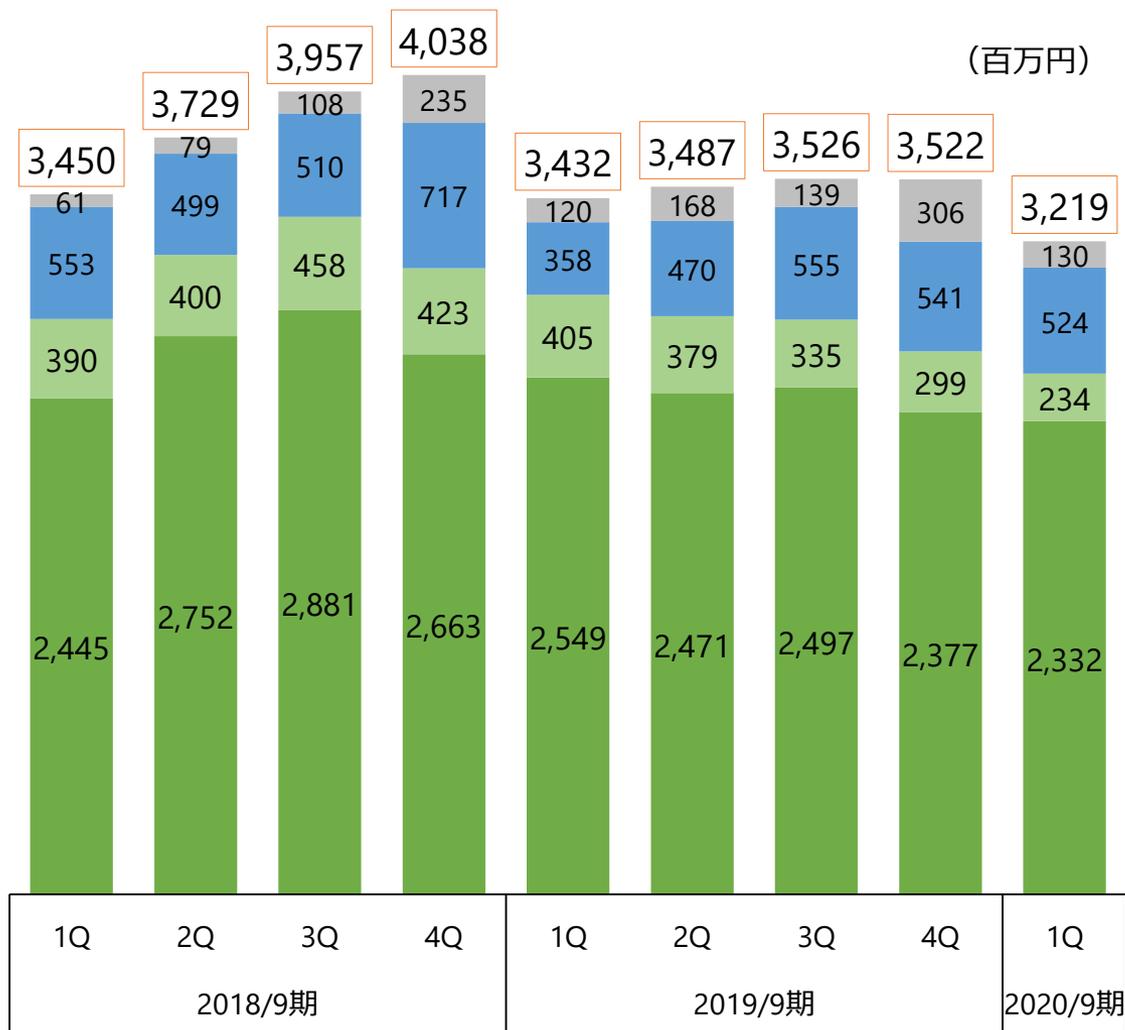


対業績予想
進捗率

24%

売上構造推移

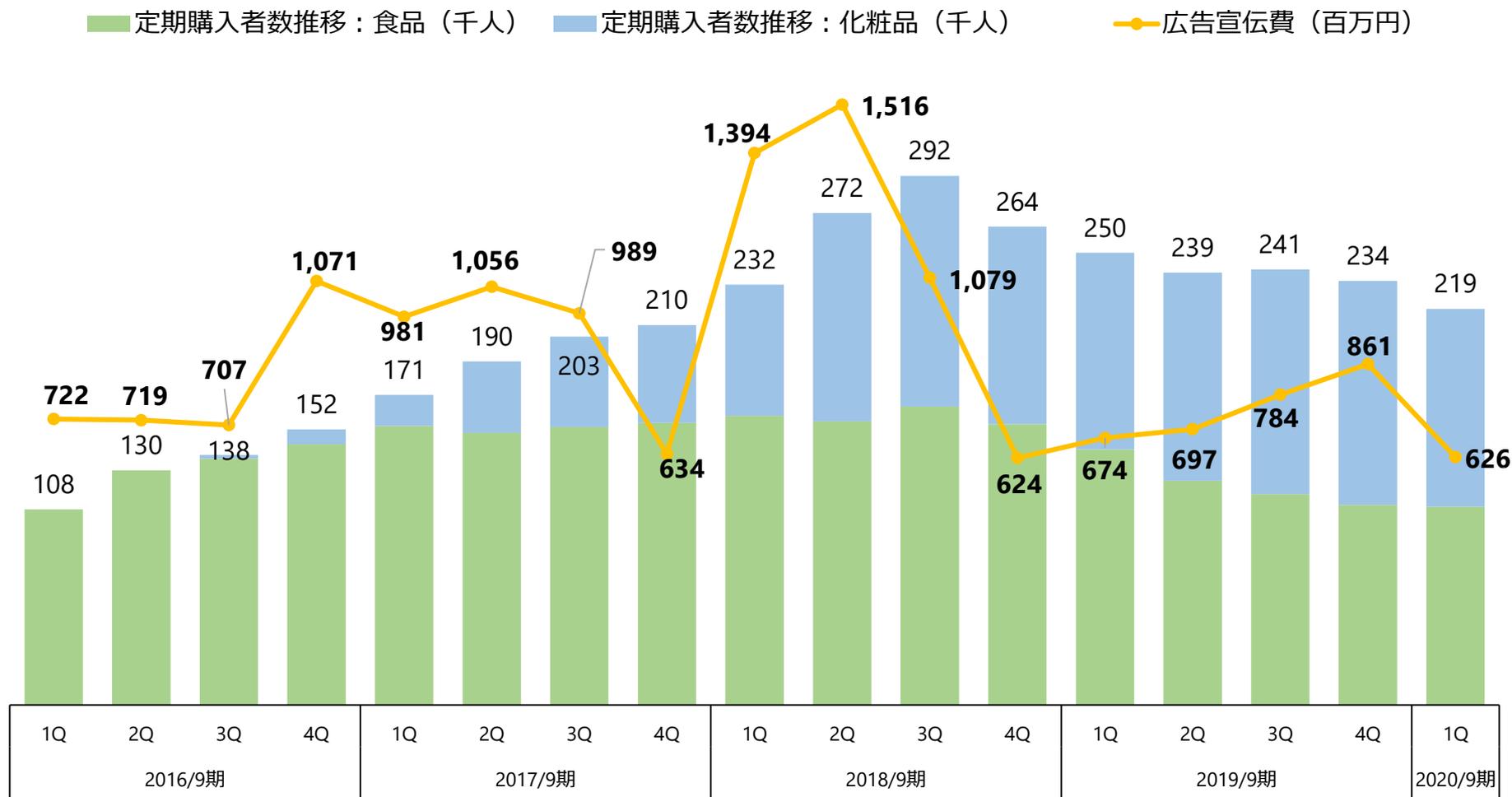
■ 直販 ■ 流通 ■ OEM・原料・海外 ■ その他



**2020/9期下期以降
の施策展開による
再成長を目指す**

直販—定期購入者数推移

直販の広告投資抑制により、前期において投資領域であった化粧品の定期購入者数が減少



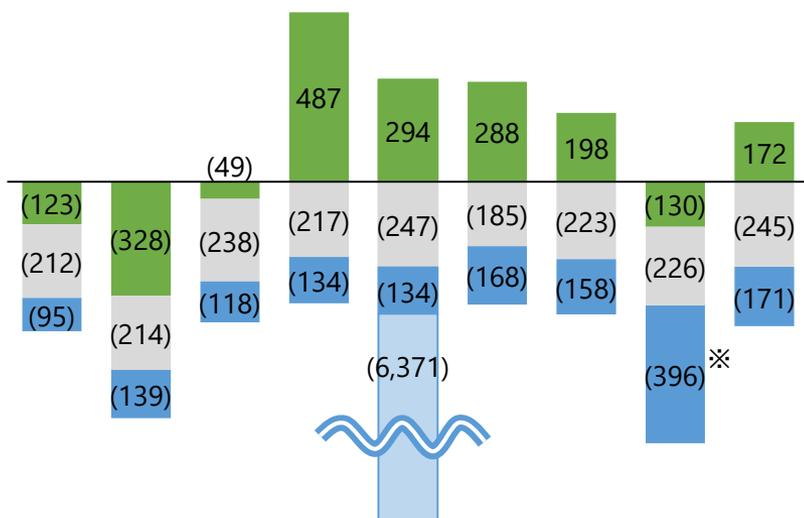
セグメント別損益、EBITDA

ヘルスケア事業のセグメント損益は黒字を堅持

セグメント別損益

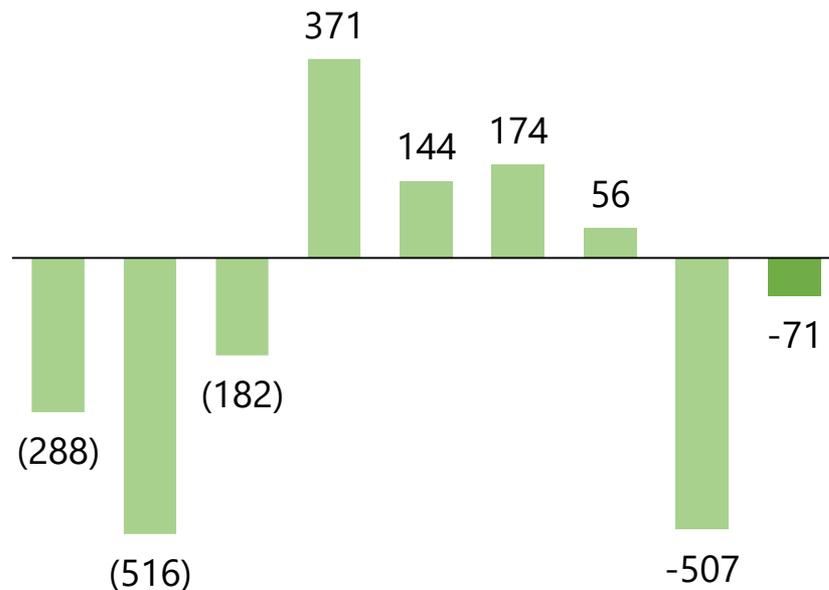
(百万円)

- 実証プラント一括費用計上額
- エネルギー・環境事業
- 全社費用
- ヘルスケア事業



EBITDA推移

(百万円)



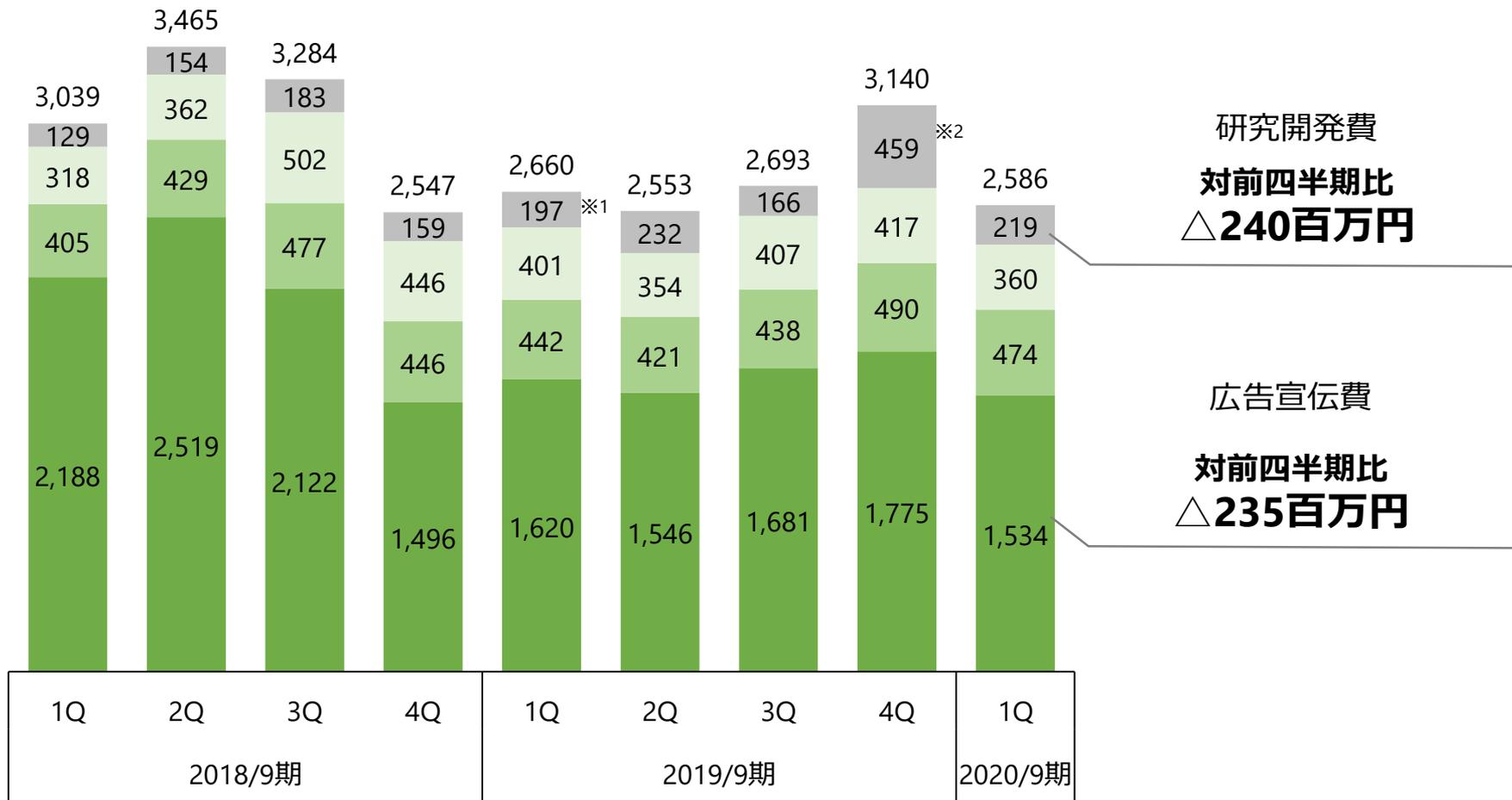
* 実証プラントの定期修繕により費用拡大、毎年夏季に実施予定

経営指標—販売費及び一般管理費

今期方針に沿って広告宣伝投資の見直しに着手

(百万円)

■ 販売費 ■ 人件費 ■ 管理費 ■ 研究開発費



※1 実証プラント引き渡しに伴う一括費用計上額を除いた数値

※2 実証プラントの定期修繕により費用拡大、毎年夏季に実施予定

グループ再編の推進

グループ経営の強化および効率化を目的にユーグレナ・アートとフックを統合



目的

- **ブランド統一**による流通営業強化
- バックオフィスのスリム化

- **デジタルトランスフォーメーション**の加速
- バックオフィスのスリム化

効力発生日 2020年1月1日

効力発生日 2020年4月1日（予定）

事業内容 ユーグレナ等の微細藻類等の食品、化粧品の販売

事業内容 健康食品、化粧品の企画販売

概略

CHIKARAシリーズ

美的ヌーボ / 美的酵素
SUPER CARE

主な商品



主な商品



短期的売上成長・利益確保は追求せず、**持続的成長に向けた素材/ブランディング/事業基盤整備に投資比重をシフト**

- 中期目標「2020/9期連結売上高300億円」を撤回
- 今期も減収予想とし、来期以降の売上再成長に向けた投資を優先

1 課題/機会

ユーグレナ食品
の低い認知率

素材への
フォーカス

- メーカーとしての素材開発、機能性研究の強化
- 便益の特定と認知向上施策の展開
- 全販路展開による「国民的素材」化

2 課題/機会

企業/素材/商品間の
ブランド連携不足

ブランディングへ
広告比重シフト

- 持続的成長につながる「企業/素材/商品ブランディング」への投資を拡大
- 短期的な直販広告投資を縮小、KPI厳格化

3 課題/機会

獲得チャネル/
顧客層の偏り

事業基盤整備

- マーケティング/CRM/事業管理におけるデジタル化推進
- ロイヤルカスタマー育成施策の拡大

エネルギー・環境事業の進捗

ASTM D7566 新規格取得完了

2020年1月30日に当社バイオ燃料製造実証プラントで導入しているBICプロセス※1が、**ASTM D7566の新規格を取得**

規格策定機関	
新規格取得企業	Chevron Lummus Global & Applied Research Associates
新規格番号	ASTM D7566 – 19b (Annex A6 catalytic hydrothermolysis jet (CHJ)) ASTM D7566規格の記載 (抜粋) 1.2.2 Field blending of synthesized paraffinic kerosine (SPK) blendstocks, as described in Annex A1 (FT SPK), Annex A2 (HEFA SPK), Annex A3 (SIP), Annex A4 synthesized paraffinic kerosine plus aromatics (SPK/A), Annex A5 (ATJ), or Annex A6 catalytic hydrothermolysis jet (CHJ) with D1655 fuel (which may on the whole or in part have originated as D7566 fuel) shall be considered batch origination in which case all of the requirements of Table 1 of this specification (D7566) apply and shall be evaluated. Short form conformance test programs commonly used to ensure transportation quality are not sufficient. The fuel shall be regarded as D1655 turbine fuel after certification and release as described in 1.2.1.



ASTM International Webサイトより抜粋
<https://www.astm.org/Standards/D7566.htm>

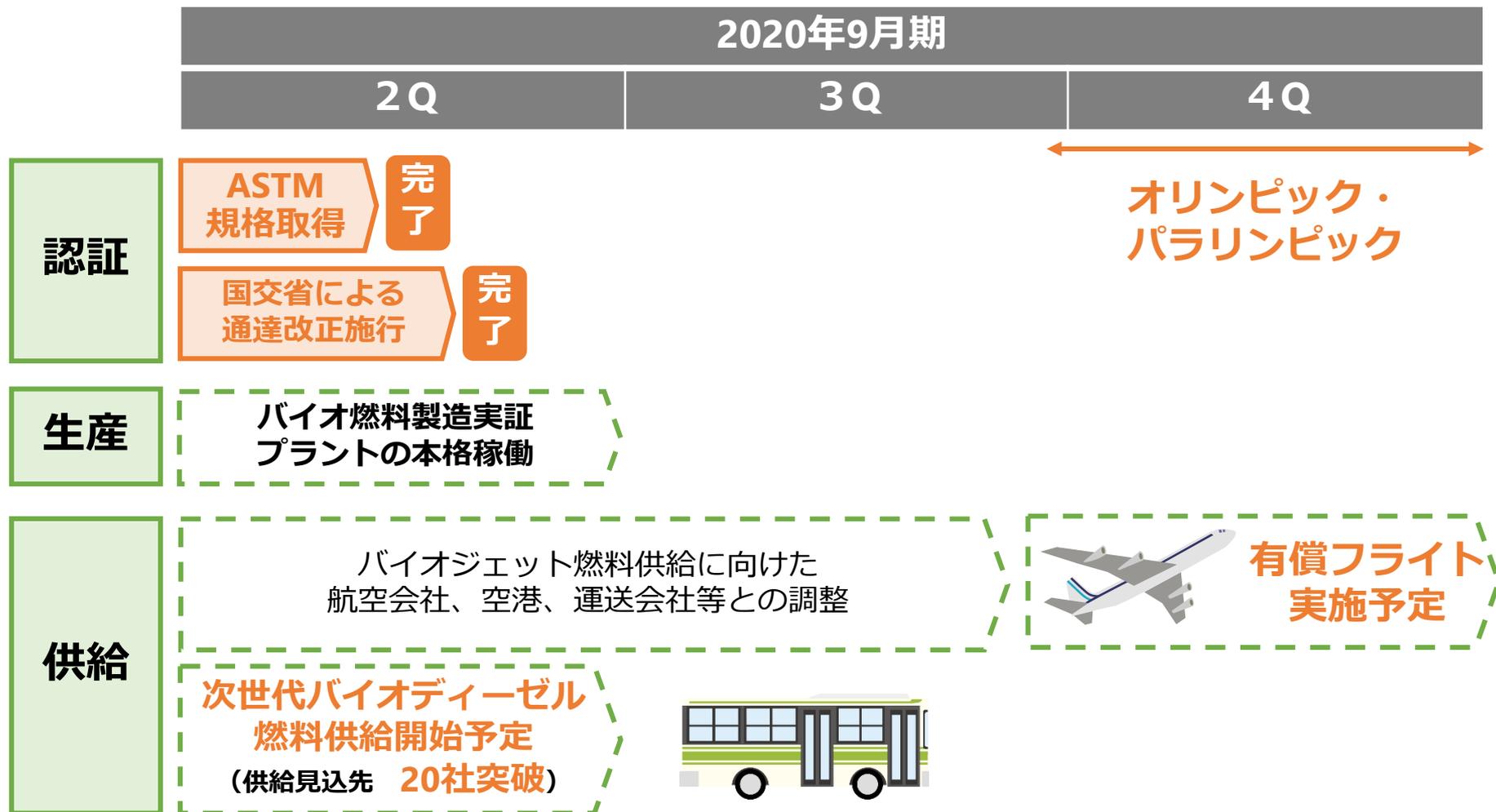
当社のバイオ燃料製造実証プラントで製造した
バイオジェット燃料は、
民間航空機に搭載可能な燃料であると認められる※2

※1 米国のChevron Lummus GlobalとApplied Research Associatesが共同開発した独自のバイオ燃料製造技術

※2 日本国内では、ASTM D7566規格に準拠して製造されたバイオジェット燃料の取扱いに関する国土交通省の通達の一部改正が2020年2月3日付で公布・施行され、当社の実証プラントで製造されたバイオジェット燃料の国内での使用も可能となった。

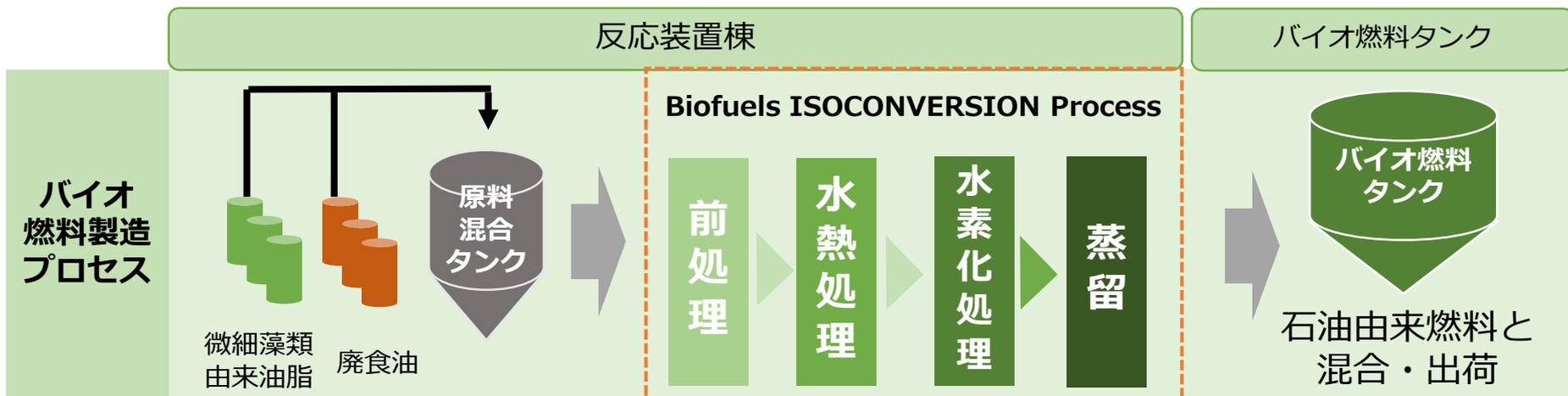
バイオ燃料の実用化に向けたロードマップ

実証プラントの本格稼働と、有償フライト実現に向けた各社との調整を残すのみ。次世代バイオディーゼル燃料の供給開始は第2四半期中を予定



実証プラント本格稼働状況

2020年9月期第2四半期中の供給開始に向けて試運転を準備中



時期	前処理	水熱処理	水素化処理	蒸留	混合・出荷
2018年冬	課題発生				
2019年春	解決 →	課題発生			
2019年夏		解決 →	課題発生		
2019年秋～冬			解決 →	進行中	
2020年春					バイオ燃料供給開始

コロンビア実証実験開始 伊藤忠商事との取組

コロンビアでバイオ燃料用および飼料用ミドリムシ生産の実証事業を開始。海外実証をインドネシアと併せた2国体制に拡充



燃料用および飼料用ミドリムシの研究拠点

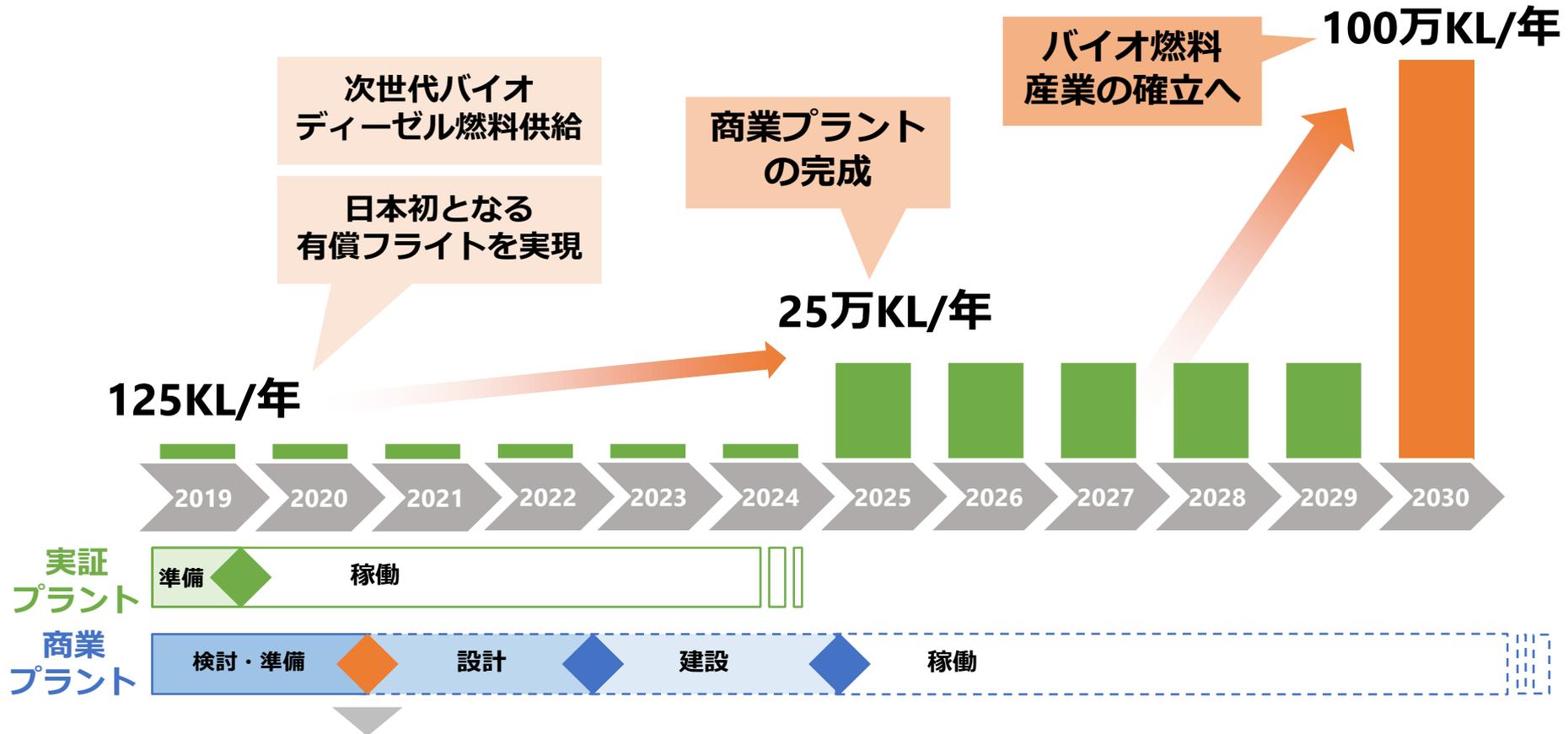


現地培養データを取得するための培養槽

半年から1年間の両国での試験結果より、海外における培養実証事業の実施国を絞りこむとともに、培養試験の規模拡大を予定

バイオ燃料製造・供給の商業化に向けて (2019年9月期本決算説明資料より再掲)

実証プラントの稼働データ獲得と並行して、商業プラント設計開始に向けた準備を推進。2020年中に設計開始を判断予定



商業プラント設計開始に向け、立地候補地調査や事業パートナー候補との協議を実施中

補足資料

会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都港区芝5-29-11	
資本金	73億1,814万円	2019年9月末
売上高	139億6,767万円	2019年9月期
従業員数	454名（連結）	2019年9月末
グループ会社	完全子会社8社、海外合弁会社2社（上海、ダッカ）	2020年2月10日時点
経営理念	人と地球を健康にする	
経営ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	2931	
株主数	87,919名	2019年9月末

連結損益計算書サマリー

(百万円)	2018/9期					2019/9期							2020/9期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	一括費用 計上除く ※1	2Q	3Q	4Q	合計	一括費用 計上除く	1Q	合計
売上高	3,450	3,729	3,957	4,038	15,175	3,432	3,432	3,487	3,526	3,522	13,968	13,968	3,219	3,219
直販	2,445	2,752	2,881	2,663	10,740	2,549	2,549	2,471	2,497	2,377	9,894	9,894	2,332	2,332
流通	390	400	458	423	1,672	405	405	379	335	299	1,418	1,418	234	234
OEM・原料・海外	553	499	510	717	2,279	358	358	470	555	541	1,924	1,924	524	524
その他	61	79	108	235	483	120	120	168	139	306	733	733	130	130
売上原価	841	946	1,078	1,355	4,220	858	858	1,000	1,018	1,134	4,010	4,010	878	878
売上総利益	2,609	2,784	2,879	2,682	10,954	2,573	2,573	2,487	2,509	2,388	9,958	9,958	2,342	2,342
粗利率	76%	75%	73%	66%	72%	75%	75%	71%	71%	68%	71%	71%	73%	73%
販売費及び一般管理費	3,039	3,465	3,284	2,547	12,334	9,031	2,660	2,553	2,693	3,140	17,418	11,047	2,586	2,586
販売費	2,188	2,519	2,122	1,496	8,325	1,620	1,620	1,546	1,681	*1,775	*6,623	*6,623	1,534	1,534
(内 広告宣伝費)	1,394	1,516	1,079	624	4,614	674	674	697	784	861	3,016	3,016	626	626
人件費	405	429	477	446	1,757	442	442	421	438	490	1,791	1,791	474	474
管理費	318	362	502	446	1,628	401	401	354	407	417	1,579	1,579	360	360
研究開発費	129	154	183	159	624	6,568	197	232	166	459	7,425	1,054	219	219
営業利益	-430	-681	-405	136	-1,380	-6,458	-87	-66	-184	-752	-7,460	-1,089	-244	-244
EBITDA	-288	-516	-182	371	-614	144	144	174	56	*-507	*-133	*-133	-71	-71
営業外損益	66	148	42	27	283	36	36	132	181	*38	387	387	28	28
(内 助成金収入)	42	124	27	10	203	18	18	109	167	25	320	320	30	30
経常利益	-364	-533	-363	163	-1,097	-6,422	-51	66	-3	-715	-7,073	-703	-216	-216
特別損益	1	1	-1	-13	-12	0	0	2	5	-2,539	-2,532	-2,532	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	-462	-531	-373	113	-1,252	-6,495	-124	38	-81	-3,261	-9,799	-3,428	-253	-253

◆参考指標

減価償却費	91.3	108.7	125.1	145.1	470.3	140.9	140.9	149.7	145.2	140.1	575.9	575.9	135.7	135.7
(内 M&A関連)	10.7	13.4	18.7	18.7	61.5	18.7	18.7	18.7	18.7	18.7	75.0	75.0	18.7	18.7
のれん償却額	50.9	56.8	97.6	90.3	295.6	90.3	90.3	90.3	95.1	104.9	380.6	380.6	37.8	37.8

※1 バイオ燃料製造実証プラントの建設関連費用: 6,370百万円

※2 表中の※印については集計上の軽微な誤差があったため訂正しております

連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2018/9末	2019/9末	2019/12末
流動資産	8,362	11,183	10,463
現金及び預金	4,427	7,833	6,925
その他	3,935	3,350	3,537
固定資産	13,476	6,016	5,746
有形固定資産	8,897	3,590	3,518
(内 建設仮勘定)	4,984	7	6
無形固定資産	3,777	1,649	1,586
投資その他の資産	802	778	642
(内 投資有価証券)	389	431	311
総資産	21,838	17,199	16,208
負債	5,933	6,365	5,625
流動負債	2,081	2,470	1,926
(内 短期借入金)	461	471	470
固定負債	3,851	3,895	3,699
(内 長期借入金)	3,389	3,190	3,091
純資産	15,905	10,834	10,583
株主資本	15,898	10,823	10,570
(内 資本金)	5,424	7,318	7,318
(内 資本剰余金)	9,080	11,880	2,224
(内 利益剰余金)	1,625	-8,225	1,179
その他	7	11	13
負債純資産合計	21,838	17,199	16,208

補足資料：
持続可能な開発目標 (SDGs)
達成に向けた取り組み

CFO（Chief Future Officer：最高未来責任者）企画活動報告

未来世代の当事者として会社と未来を変えるため活動

第15期定時株主総会

定時株主総会においてCFO小澤のご挨拶と、社外取締役岡島悦子とのトークセッションを実施



Japan Action Tank

バングラデシュ・グラミン銀行創始者のムハマド・ユヌス氏を招いたソーシャルビジネスに関するイベントでCFO小澤が登壇



当社CFO小澤杏子（左）、社長出雲充（右）

経営陣への提言

月に数回のサミット開催を通じ経営陣への提言を検討中



当社副社長永田暁彦（左）、サミットの様子（右）

CFO企画

概要

未来を担う世代と一緒にこれからの地球の課題に向き合っていくために、18歳以下の「CFO= Chief Future Officer（最高未来責任者）」1名、サミットメンバー8名を募集・決定。

任期

2019年10月～2020年9月

バイオテクノロジーで、
昨日の不可能を今日可能にする

